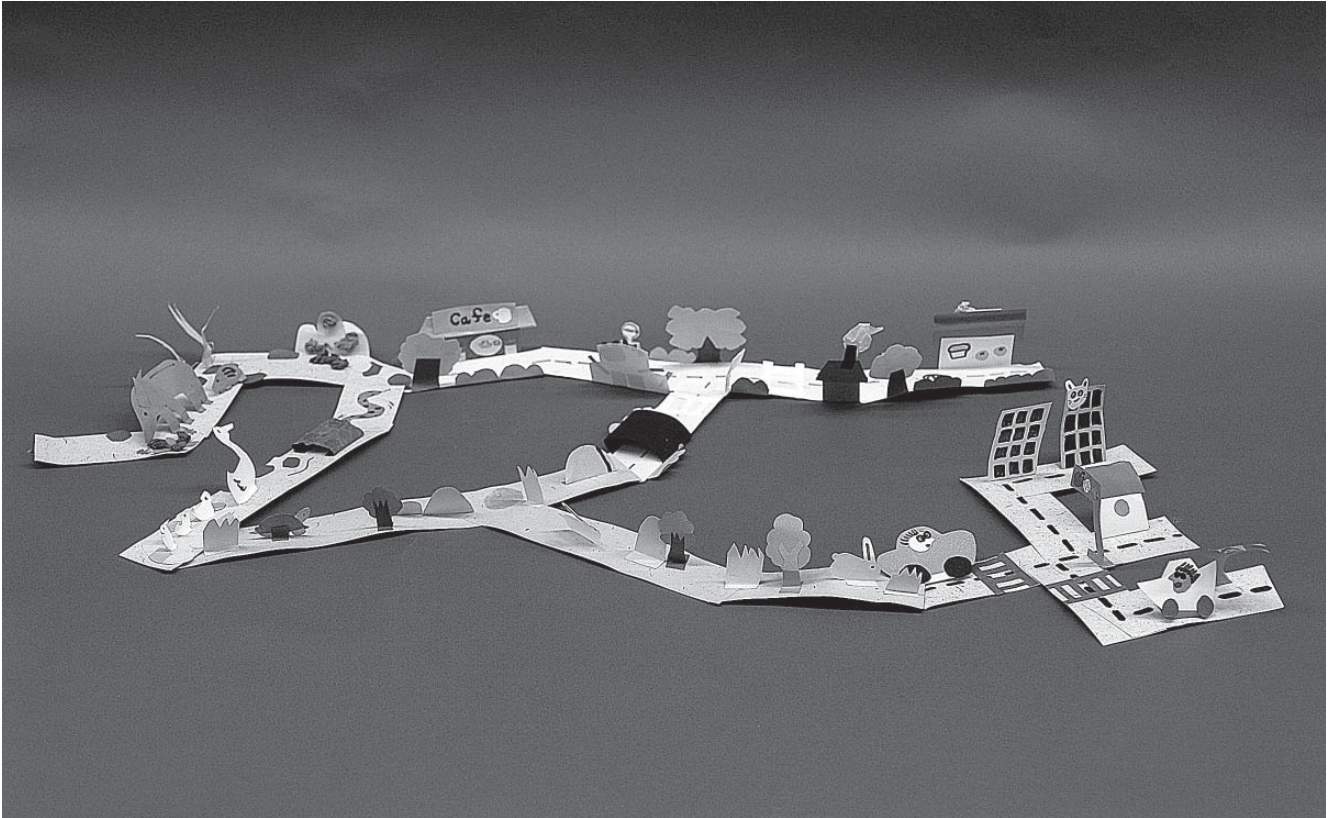


つないで作る “紙”の造形

個人で作品を作ることも造形活動、みんなで一つの作品を作ることも造形活動です。ここでは、個人で作品作りを楽しんだ後、それらを持ち寄ると、大きなまとまりのある作品にもなる造形プログラムを紹介します。



「つないで道」

道には、人や動物の往来などで自然発生的にできた曲がったものや、なだらかで距離の短い人工的に作られた直線的な道など、いろいろな形があります。

このプログラムは、道に見立てた紙帯を切って、自由に道をつないでいきます。つなぎ方によって、ジグザク道や分かれ道、シンプルなT字路やクルリと回って元に戻るP字の道など、さまざまな形の道になります。

道ができたところで、道のまわりには何があるのか、また道の上には何が走っていて、何が動いているのかなど、子どもたちと一緒に考えてみましょう。家や信号、横断歩道、街路樹、車、犬や猫…たくさん子どもたちがいればいほど、いろいろな意見が飛び交うことでしょう。また、

子どもたちと一緒に実際に道を歩きながら、何が見えたのかを、みんなで書き取っていても楽しいでしょう。

そうして道に対するイメージをふくらませ、いろいろな色の紙やペンを使って自分の道を飾っていきます。

完成したら、個々で仕上げた作品を持ち寄って、どんどんつなげてみて下さい。あっという間に壮観でにぎやかな街ができあがります。協力や交流の要素を持ったグループ制作にも向いたプログラムです。

鑑賞する際には、作品群の上から眺めてももちろん楽しめますが、しゃがみ込むようにして作品の高さと目の高さを同じ高さにして見ると、まるでジオラマのようによりリアルに見えます。ぜひ試してみてください。

このプログラムは、年齢を問わず取り組める作品ですが、高学年向けに工具などを使って、もう少し手の込んだ作品にしてみたい場合、紙帯の代わりに細い幅の木の板（ベニヤ板など）を使えば、木工制作として取り組むこともできます。使う材料は、近くに製材所やホームセンターがあれば、端材や不要な木っ端を大量に安価に手に入れることもできます。

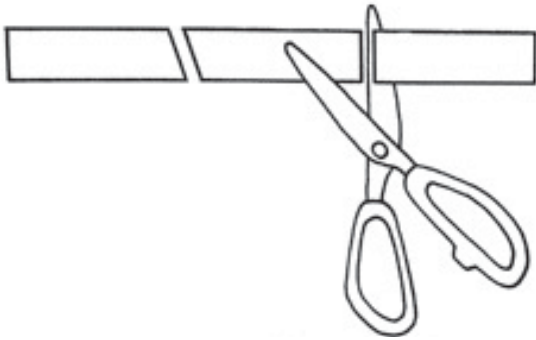
のこぎりを使える環境があれば、木の板を3～4枚に切り分けたあと、木工用ボンドや釘でつないで、さまざま

な形の道を作れます。のこぎりの使用が難しい環境なら、短めの細い幅の木の板を数本自由な形につなげて道を作ることもできます。

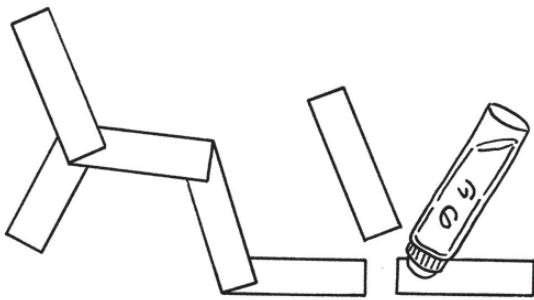
飾りは、垂木（細めの角材）などを小さめに切るだけで自動車やビルになったり、木っ端を組み合わせて街路樹に見立てることもできます。また、釘を頭まで全部打ち込まないで半分ほど残して打つと、それが電柱になったりと、木工ならではのいろいろな飾り付けが楽しめます。

□ 「つないで道」の作り方□

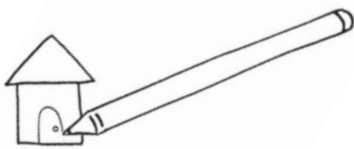
- 「つないで道」作りで使う道具□
はさみ／のり／水性マーカー
- 「つないで道」の材料□
①ラシャ紙帯×2本 (3.5cm × 27cm)
②飾り用のいろいろな紙



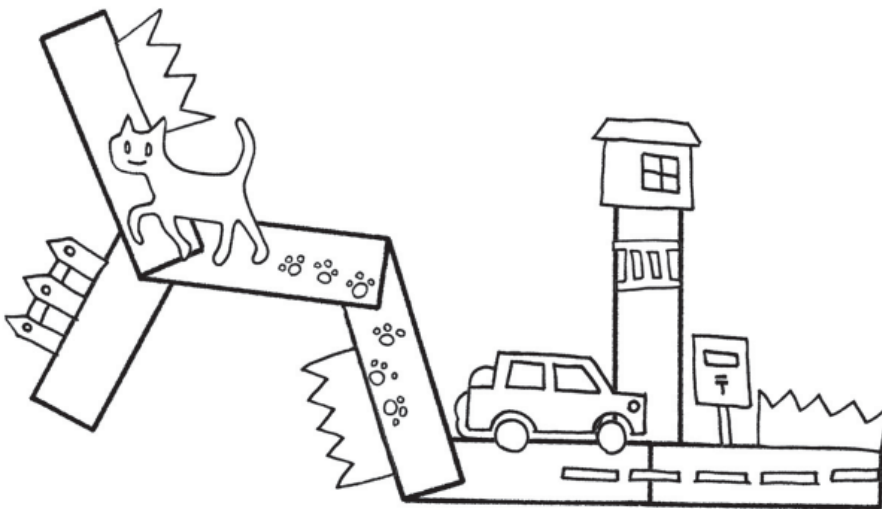
① ラシャ紙帯をそれぞれ好きなところで2～3ヶ所切ります。



② -A 自由な形につなげて、のりで接着します。



③ 紙やペンで家や車など道の飾りをつけて完成。



②-B さまざまな形につなげて、のりで接着します。
自由につなげてみましょう。

